EDUCATION

「地域と共に（地域に根付く須木っ子たち）」

須木小学校　教務学習部
蒲池 頼三　中原 智子　勝吉 千穂

私たちの学校は、これまで多くの地区の方々を講師に招き、その折々に大切なお話や貴重な体験活動をさせていただき、多くの学びを創ってきました。しかし、学校は、地域への「お願い」、「求める」ばかりで、地域に「役立つ（貢献）」、「与える」活動をしてきたのでしょうか。

この疑問を解決するために、須木小学校では直接地域へ出向き、地域のためになる活動を仕組み、地域を元気づける機会にすることはできないかと考えています。各地区の子どもたちが身近である地区公民館に集合して、地区公民館活動の一役を買って出ようというものです。これが、「ふるさとプロジェクト」という活動です。

まず、学校と地区が密接な連携を図るために、区長の皆さまに「地域に役立つ活動がしたい」と提案し、協議して了解を得ます。次に、地区担当者と区長さんと活動内容を検討していきます。本年度の主な活動は、地区に伝わる伝統芸能の継承、道路清掃活動、ふるさとを知る活動（水性動植物調査、水源地見学）、防犯教室、高齢者宅訪問と各地区ともに積極的に活動を展開します。

この活動を通して、子ども達がふるさとを愛し、多くの人々と交わり、人と人との繋がりの上に立つ自分の立場を考え、日々精一杯努力してくれることを望んでいます。そして、子ども達の住む地区が益々絆を深め、安心で安全な心の拠り所となる「ふるさとの創生」に向け、学校は、地域とともにまい進していきたいと思います。

写真左上＿鳥田町地区では、「防犯教室」を開催。左下＿「七夕飾りづくり」を行った奈佐木地区。右上＿麓地区では、地区に伝わる伝統芸能「一ノ谷剣舞」を練習

国際交流『シャネットの 徒然なるままに』
WORLD

小さなこととスプーンのお話です。

Vol.21

「世界一朝が弱い」というタイトルを取れる自信があります。嬉しいことでも、自慢でもありません。

朝が弱いですから、朝は機嫌も悪いです。毎朝、鏡からぷくぷくした顔の女の人が私を睨みつけて、「今日も遅いわよ」と攻めてきます。お茶を飲んで、納豆を乗せた卵かけごはんを食べて、もう一度鏡の前に行くと、嬉しいことにぷくぷくおばちゃんが去っています。鏡が普通に戻り、私は慌てて化粧をします。

この時点では、機嫌はまだなおっておりません。急いで玄関を飛び出し、外の空気を吸うと、小さな元気が湧いてきます。目を須木方面の山々に向けると、もう少し元気が湧いてきます。階段を降りたところで、運がいい日だと、隣に勤めている女性の方とすれ違います。にこにこ挨拶をしてから、一言を交わします。うん。そのときから、絶好調です。こういう小さな出来事のおかげで、一日が明るくなることはありませんか？買い物のときにも、レジの方に買い物以外のことで声をかけられたりすると、非常に嬉しいです。

そういう小さいことがだんだん重なり、わたしの心を優しく包んでくれます。

小林の人々は気遣いが上手だなとよく思います。いつものお店でいつものパスタを頼むと、いつもみたいにフォークと一緒にスプーンとナイフが置かれます。大人になっても、私はパスタを切って、スプーンで食べます。恥ずかしながら、覚えてもらえたことは嬉しいです。

小さい喜びは、幸せへの第一歩です。

SPORTS

秀峰高校男子ハンド部・新体操部インターハイ準優勝

南関東で開催されたインターハイ。この大会で、小林秀峰高校の新体操部と男子ハンドボール部がともに準優勝しました。

◆新体操部

惜しくも準優勝。リベンジ誓う

昨年のインターハイで、準優勝だった新体操部。「今年こそは」とリベンジを誓い、例年以上に練習し、臨んだ今年のインターハイでしたが埼玉栄高校にわずか0・025点差で敗れ準優勝でした。岩下涼志主将は、「本当に少しの差だったので、悔しさでいっぱいです。11月に開催される全日本選手権では、完璧な演技を魅せ、高校生トップになれるよう練習に取り組みたい」と話していました。

男子新体操部の部員ら

◆ハンドボール部

目標は日本一。国体優勝目指す

今年の男子ハンド部は力はあったが、3月に開催された全国選抜大会では2回戦敗退でした。そこで、疲れても力を出し切れるように練習前に7キロの走り込みを実施。その成果もあり、試合後半も攻め続けることができました。中村誠忠主将は、「あくまで目標は日本一だったので、悔しい気持ちはあります。3年生にとっては最後の大会である国体にむけて準備をしていきます」と話していました。

男子ハンドボール部の部員ら

小林市出身の選手に聞きました

先輩の思い受け継ぎ日本一を目指す

準優勝はすばらしい結果ですが、満足していません。来年の私たちの代では、先輩たちの優勝への思いを受け継ぎ、日本一になるために、練習に励んでいきます。

ハンドボール部２年
重山　佑太さん

ハンドボール部３年
松嶺　安孝さん

インターハイは完敗国体でリベンジする

インターハイ決勝では、私は１点も決めることができず完敗でした。しかし、まだ国体があります。決勝で負けた沖縄に勝つために本気で練習し、リベンジします。

来年こそは優勝し応援に応えたい

地域の人たちの応援への感謝の気持ちを表すためには、優勝しかないと思っています。今年は、メンバーになれませんでしたが、来年は出場し必ず優勝します。

新体操部２年
早田　神龍さん

新体操部３年
高畑　良太さん

応援が励みになった演技後は達成感で涙

地域の人からの「テレビで見たよ、がんばって」などの応援がとても励みになっています。準優勝は悔しかったですが、達成感で演技後涙が出てきました。